

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	舗装箇所	箇所	目標	4.00	5.00	4.00
			実績	5.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	舗装延長	m	目標	920.00	1,400.00	900.00
			実績	912.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	農道を舗装整備することにより、出荷物の荷痛みが防止され、生産性が高まるとともに、農村地域の生活環境の向上が図られる。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	当事業は公共道路である農村地域の市道の舗装整備であることから、市の事業として実施する必要がある。
	手段の妥当性	A 妥当である	整備する農道の状況に応じて、測量や設計業務を直営で行うか委託するかを適宜判断するとともに、道路の舗装整備に際しては、国が定めた基準に準じて実施している。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	現場測量や工事設計及び積算は、基本的には職員が行うことによって、コストの削減を図っている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	道路は公共施設であるため、市民の誰もが利用できるものである。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	毎年、4～5路線の舗装整備を実施しており、整備された路線や路線延長は増加している。
進捗度	事業の進捗	C 遅れている	年次計画により舗装整備を行っているが、地元からの要望件数も多く、全てに対応することか困難であるため、要望されているが未整備の路線も多く残されている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
農道整備は計画的に行っており、その成果は順調に上がっている。 また、舗装整備された農道は、道路としての利便性が向上するため、農耕車だけでなく一般車両の利用も増加している。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
農道整備は、早期に多くの地元要望に対応できるよう、今後も、年次計画によって実施していく。 なお、農道の一般車両の通行増加によって、農耕車の往来や農作業に支障が生じないような方法等も、検討していかなければならない。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☒ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 地元から農道整備の要望が出されているが、未整備の路線が数多く残されているため、予算を拡充しながら、計画的に進めていく。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 財政状況と可能な限り調和を図りながら進める。